

「脚下照顧」

「サイパン旅行と靖国参拝の関係」

今年もみなさんのお蔭をもちまして無事に社員旅行に行くことができました。場所は去年と同じサイパンで、3時間で行ける南国ということでテクアの定番になりつつあります。今回は私の偉大な師であり、長年の上郷工場での『汚れ関係同志』でもありました郷治さんが同行された為、案内をかねて初日の朝から『バンザイクリフ』などの島内観光に出かけました。

『バンザイクリフ』は太平洋戦争中、日本軍の敗戦が濃厚になりつつあった時に、米軍の捕虜になるくらいならと、「天皇陛下万歳！」と叫んで、みずから海に身を投げる日本人が続出したことからその名前が付けられた場所で、その光景を見ていたアメリカ人は、そこで何が起きているのか全く理解不能だったらしく、我々日本人にとっては、たとえ年月は流れたとはいえ、日本人独特の「恥」の概念を何となく理解でき、本当にやるせない気持ちになる場所でした。

そしてしばらくその場で黙祷し、ホテルに帰ってからみんなに、これから我々がはめをはずすことの許しを、ご先祖様に了解してもらってきたよ！と報告しました。(すみません。恥じらいもなく勝手に了解してもらっていますが...)すると井上さんが

「俳優の的場浩司さんも、南国でダイビングする時は必ず慰霊碑を訪れてお酒を供え、『これからしばらく遊ばせていただきます』と一声掛けてから出かけるんですよ」と教えてくれ、

『ああ、芸能界にも代々遊び方を伝えている伝統があるのだろうなあ』とふと思い、テクアも今後必ずこのスタイルを傳承していこうと心に誓うとともに、小泉首相の靖国神社参拝も多分に、この心情的部分、政治の世界で先輩から代々受け継いできたスピリットを大切にしたいが為に、意地になっているのではないだろうかと思いました。

靖国問題は大きくわけて

今回自分達を感じたような、「今の日本の平和は、人生の先輩達の悲しい犠牲の上にあるという哀悼と感謝」の感情と「アジアの人達に迷惑を掛けたという、日本人が一番嫌う、他人に迷惑を掛けて申しわけない」という感傷と、「これ以上こじれると景気と株価に影響が出るのでいいかげんにしてもらいたい」という損得勘定と、「何回謝罪したところで結局、外交カードに利用されるだけ」という国際社会のドライなあきらめ乾情、「いつまで土下座外交しているのか？いいかげんにしろ！！」という癩癩玉がはじけるような癩情、に分けられるのではないのでしょうか。

しかし ~ のどれが正しくどれが間違っているというわけではなく、誰の心にもそれぞれの感情が入りまじっていて問題を複雑にしていると思います。サイパンではマリンスポーツ、カート、射撃、公営カジノ、その他もろもろ(笑)遊びの限り(?)を尽くしてまいりました。等身大の自分をしっかり遊ばせてまいりました。しかし今回13人でサイパンに行き、13人それぞれのやりたいことや意見を調整することがどれほど難しいことか、つくづく痛感したわけですが、では1億人を超える人々の、それぞれの靖国にまつわる思いをかなえる事の難解さは本当に想像を絶するものがあると思います。

ましてや毎日地方から多数の人が陳情におもむき、毎日200を超えるアイテムを処理しながらポイント、ポイントで大きな決断をしなくてはならず、TVや週刊誌は『丸投げ小泉』とかいって、芸能記事のように小泉さんの事を扱うことがよくありますが、実務レベルで見れば日本でこれ程、荷の重い仕事を親父的ながんこな表情をくずさず、淡々とこなしている人はいないのではないのでしょうか。

自分がテクアで『遊び』と『仕事』、『利益』と『安全』のバランスを取っている労力の何百倍のそれで『国家のプライド』と『国民の平和と幸せ』の微妙なバランスを取ろうとしています。願わくば、激務で疲れすぎて脳が酸性化して我を張りすぎなければなと思います。

>>>つづく

>>>つづき

最終的にはアジア人の感情を優先し、悔しさは全国民が心の中に秘めて、次のステージに上がる為の原動力にするしかないと思います。

日本人は本当に悪者でしょうか？心配しなくても物作りの中に込められた品質や安全性や遊び心、自然に対するいたわり、まじめさ、信頼性、…。そんな日本人独特の感性を、世界中の人々がその物を使うことによって少しずつ、感じ取って理解してくれているのではないのでしょうか。我々テクアのメンバーも自動車産業の中でほんのわずかではありますがその一端を担っています。世界に誇れるメンテナンス業に邁進してまいりましょう！
(海外旅行に行くとついつい気が大きくなってしまいます。)

【羽原 篤史】

